

北海道大学の近況 2013年春
北海道大学総務部広報課 掲載記事

水産学部附属練習船
「おしよ丸」代船
起工式を挙行

水産学部附属練習船「おしよ丸」代船の起工式を、3月21日(木)に岡山県玉野市の三井造船株式会社玉野事業所で行いました。起工式には本学から佐伯浩総



国立大学法人 北海道大学 敬告
三井第1895番船 練習船 おしよ丸代船
平成25年3月21日 起工



①起工式での記念撮影
②おしよ丸代船の完成イメージCG

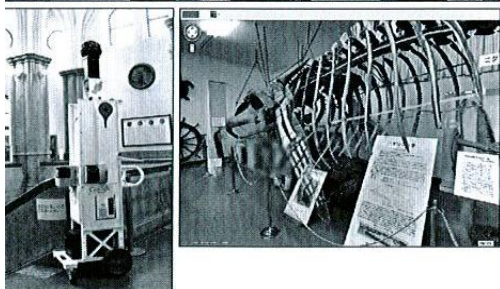
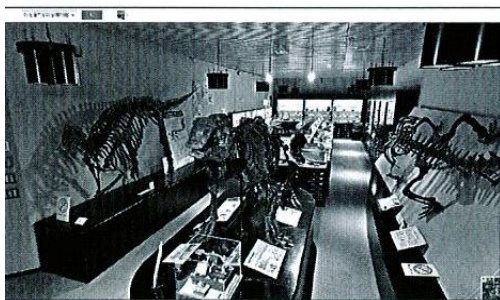
長、嵯峨直恆水産学部長、多田晴観財務部長、他8名が列席し、三井造船株式会社 岡田正文常務取締役ら関係者も同席の中、厳かに神事が行われました。
溶接工事では、佐伯総長が実際に使用される鋼材の一部にインシヤルサインを行った後、溶接開始のスイッチを押し、機械による初めての溶接作業が行われ本格的な建造が始まりました。
起工式後、記念祝賀会が行われ、船主代表として佐伯総長より最新設備を備えた新しい船は本学の学生や教員研究者だけではなく、他のも高校生や大学生・大学研究者にも幅広く活用されることを祈念しているとの挨拶がありました。
新船は、全長約78m、幅約13m、総トン数は約1600トン、定員が99名(うち学生は60名)です。現船にはない船体動揺を低減する「フィンスタビライザー」を搭載し、荒天時でも海洋観測を継続でき、かつ学生の安全性をより確保することができます。
また、最新の海底地形探查装置や大型のウインチ・クレーンを搭載するほか、研究室や学生実習室を拡大し、高度で多様な教育・研究を实践できる環境が整備されます。
(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

総務部広報課

Googleのストリートビューで総合博物館、水産科学館を公開

総合博物館ならびに函館キャンパスの水産科学館がGoogleマップのストリートビューでご覧いただけるようになりました。ストリートビューとは、Googleが提供するGoogleマップ機能の一つで、ベルサイユ宮殿、スタンプフォード大学、本学札幌キャンパスのメインストリートも公開しており、その場にいるように360度のパノラマ写真で館内を参照することができます。

撮影は一昨年3月に行われ、国内の博物館では当館が初めてとなりました。今後は、当館のウェブサイトで連動して公開していく予定です。
(総合博物館)



①総合博物館内(ストリートビューより)
②アインシュタインドーム撮影風景
③水産科学館内(ストリートビューより)

北海道大学の近況

(2013年春)

北海道大学総務部広報課

佐伯浩第17代総長の 離任式を挙行

3月29日(金)、佐伯浩第17代総長の離任式を大勢の教職員が出席する中、事務局大会議室で挙行しました。

離任式では、役員及び教職員を代表して三上隆理事・副学長が感謝の言葉を述べた後、佐伯第17代

総長から5年11カ月の在職期間を振り返っての挨拶がありました。

その後、山口佳三第18代総長から花束が贈呈され、新旧総長の握手によるバトンタッチが行われました。

最終退庁の玄関では、教職員だけでなく大勢の学生も集まり、最後の見送りが行われました。

(総務企画部総務課)

北海道大学交流デー (韓国)を開催

国際本部では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、5月8日(水)にソウル市立大学校において北海道大学交流デーを開催しました。

ソウル市立大学校は、ソウル市

が設立・運営する公立大学で、7大学、8大学院等を有し、学生約1万1000名が在籍する総合大学です。

北海道大学交流デーは、

ソウル市立大学校の国際教育学院内の留学生や留学を希望する学生が集まるグローバルラウンジにおいて開催されました。まず、同大学出身で、本学に留学後、工学研究院の教員となった黄仁姫准教授から、本学の留学体験の紹介が行われ、続いてソウルオフィスの金秀淵事務補助員が本学の概要説明を行いました。その後、本学の紹介を行うためのブースを設置し、訪れる学生に本学の情報提供や資料の配付を行いました。

今回のイベントでは、説明会、ブース訪問の学生合わせて約70名の参加がありました。



㊦5年11カ月の重責の日々を振り返って



㊦山口第18代総長との固い握手



㊦佐伯先生、ありがとうございました ㊦大勢の学生・教職員に見送られて



准教授
本学の紹介する黄仁姫



北大ブースでの留学相談の様子

また、5月9日(木)には、韓国忠清北道で開催された廃棄物資源循環学会の会場において、北海道大学のブースを設置し、本学の紹介を行いました。本学会には、韓国及び日本の研究者、学生約400名が参加し、本学からは工学研究院の教職員及び学生9名が参加し、研究発表等を行いました。今後もソウルオフィスでは、韓国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

(国際本部国際連携課)

獣医学研究科 附属動物病院が リニューアルオープン

獣医学研究科附属動物病院が、5月20日(月)にリニューアルオープンしました。

新動物病院(通称・動物医療センター)は、近年の来院患者数の増加に伴い、待合室、診察室及び処置スペースなどで常態化していた混雑の解消と、帯広畜産大学との共同獣医学課程における参加型臨床実習の実践の場として獣医学教育の強化充実を図ることを目的に、鉄筋2階建て総面積3000平方メートルで、旧動物病院の北側に新築移転しました。



動物医療センター外観



稲葉研究科長



山口総長

動物医療センターは、診察室が12室、手術室が5室、手術室と双方向コミュニケーションが可能な手術見学室などが配備されており、今年度中には、高エネルギー放射線治療装置(リニアック)の導入も予定されております。

5月28日(火)、竣工披露式及び祝賀会が催され、学内関係招待者など約100名が参加しました。

竣工披露式では、稲葉陸研究科長の挨拶に続き、山口佳三総長、板倉智敏名誉教授から祝辞があった後、滝口満喜動物病院長の案内により、動物医療センターの施設披露が行われました。引き続き開催された祝賀会では、伊藤茂男特任教授の発声により祝宴が始まり、金川弘司名誉教授の乾杯で動物医療センターの完成を盛大に祝いました。

今後、動物医療センターは、最新の診断・治療設備を備えた動物医療機関として、獣医療の高度化と臨床獣医学分野の人材育成をより一層推進していくことが期待されます。

(獣医学研究科・獣医学部)

和歌山研究林本館が 有形文化財に登録

和歌山研究林は1925年、清流で有名な古座川の源流部に約430畝の森林を購入して設置されました。以来、本学で唯一、道外にある研究施設として、北海道では見られない照葉樹林やスギ・ヒノキ人工林に関する研究教育活動を続けてきました。近年は、本学のみならず様々な大学の研究・教育、小中高の教員向け講習、地元の小中学生や一般向けの体験学習などに幅広く利用されていきます。森林だけでなく、熊野地方の社会や民俗文化に関する研究教育の拠点としても使われるようになってきました。

和歌山研究林の事務所及び宿泊施設となる庁舎は1927年に建



和歌山研究林庁舎

てられました。この建設に当たっては周辺のシイやケヤキなどが使われたようです。その造りは洋

館風の2階建て部分と、和風の1階建て部分が隣り合う和洋折衷様式です。86年経った現在でも間取りがほとんど変わっておらず、建てられた当時の様子がよく保存されています。庁舎のある平井集落の中でも、ひととき目を引くこの建物はランドマーク的な存在となつています。地元のお年寄りの中には子供の頃、階段の手すりを滑り台がわりに遊んだ思い出を語られる方もおられ、地域に親しまれてきたことがうかがえます。こうしたことが評価され、耐震補強された2階建て部分が和歌山研究林本館として、本年3月に国の登録有形文化財になりました。これまでは庁舎を公開する取り組みは行っていませんでしたが、国の文化財になったことを契機に、一般向けの公開事業を実施することを検討しています。

和歌山研究林は最寄の南紀白浜空港から車で80分の距離にあり、少し不便なところではあります。が、調査研究や実習・研修に、この歴史的な建物を利用していただければと思います。なお、最寄のJR駅まで研究林バス等での送迎も行っています。詳しくは和歌山研究林のホームページをご覧ください。庁舎の紹介映像やパンフレットも公開しています。

(北方生物圏フィールド科学センター)